



年頭のごあいさつ

北海道林産技術普及協会
会長 高橋二郎

昭和62年の新春を迎えるに当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、ご家族ともどもご健勝にて新年を迎えられましたことと、心からお喜び申し上げます。

一昨年の9月以来の急激な円高によりまして、国産材主体の林業・林産業界は大変なダメージを受け、苦しい経営を余儀なくされております。今後、輸入関税の引き下げも加わりまして、外材の新時代を迎えることになります。また、天然林材の減少と材質の低下、人工林材の増加等、資源の変化も著しいものがございます。これらの変化に対応して林産業は今後とも、付加価値・生産性向上をはかる技術であるとか、更には製品開発の推進に併せて製品の製造コストをいかに下げるかということが、大変、重要な問題として浮かび上がってまいりました。

このような状況の中で、当協会は林産試験場のご指導を仰ぎながら、役員・会員のご協力と事務局の努力によりまして、60年度の事業であります機関誌「ウッディエイジ」と特集号の発行、講演会ならびに講習会をやってまいりましたし、更には受託事業や開発普及事業等を着実に行いまして、林産技術の普及についていさか貢献してまいりました。

新年度におきましても、前年度事業の継承に加えまして、需要拡大のためのデザイン高度化事業を受託し、国・道の補助金交付も受けており、協会も応分の負担をしてこの推進をはかるとともに、開発製品の需要促進のための普及に重点をおいてまいりたいと考えております。皆様のご指導・ご支援をお願い申し上げます。

次に、協会と表裏一体であります林産試験場が、一昨年来の建設工事が昨年10月末に完成し、12月1日から西神楽の新庁舎で業務を開始されました。この新しい時代にふさわしい試験研究体制の整備がなされまして、今後の活躍・成果を期待されております。誠に喜びにたえないところであります。試験場では改築落成を機会に、2月に落成式典、8月には場内の公開事業を計画しており、この計画を遂行するために普及協会が中心になりまして、昨年5月末に協賛会を結成いたしまして着々とその準備を進めてまいりました。協会といたしましても精一杯の協賛をさせていただきたく、昨年の理事会ならびに総会におきまして、全員一致のご賛同を得ました。

普及協会の事務所は、昨年12月1日に西神楽の試験場の新庁舎の中に移転いたしました。当協会は、今後、協会事業の一層の充実をはかり、会員皆様のご期待に添うべく鋭意努力してまいりたいと考えております。

なにとぞ今後とも格別のご指導とご支援を賜りますようお願いを申し上げ、年頭のご挨拶といたします。